

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 20 日現在

機関番号：62618

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2023

課題番号：18K12392

研究課題名（和文）危機言語コミュニティにおける言語生態系と言語移行の関係 - 琉球沖永良部語を事例に -

研究課題名（英文）The Effects of Language Environmental on Language Shift: The case of Okinoerabu Language, Ryukyuan

研究代表者

横山 晶子 (Yokoyama, Akiko)

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・研究系・特任助教

研究者番号：40815312

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、琉球諸島沖永良部島の言語（沖永良部語）の言語衰退の要因となった社会的要因を、言語実験とインタビュー調査から明らかにすることである。研究期間中に、質的調査（インタビュー調査）を26名、量的調査（アンケート調査）を505名行い、方言禁止教育、学校・仕事・友人・家庭での方言使用、メディア、家庭内での言語選択、婚姻相手の変化、言語意識、言語継承活動に着目して分析を行った。その結果、沖永良部語の理解度が急速に低下する年代と、家庭内で親以下（親、目上の兄弟など）が標準語を使用するようになった年代に関連が見られることがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、危機言語の言語衰退の実態と、その背後にある言語選択の変化の関連を、言語実験・インタビュー調査・アンケート調査から実証的に明らかにした点である。本研究の過程で行われたアンケート調査は、沖永良部島における初めての言語意識調査であり、資料的価値が高い。また、本研究は(a)言語衰退と直接関連がある要因を導いた、(b)島内の言語意識の実態を把握した、(c)危機言語の学習意欲がある人の学習ニーズの実態を捉えられた、という点において、現在島内で行われている言語復興・言語継承活動の基盤となるデータを提供し、今後の言語継承活動に貢献できると考えている。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to identify the social factors contributing to the linguistic decline of the Okinoerabu language on Okinoerabu Island, located in the Ryukyu Islands, Japan, through linguistic experiments and interview surveys. During the study period, a qualitative survey involving interviews with 26 participants and a quantitative survey involving questionnaires completed by 505 participants were conducted. The analysis focused on various factors, including education on dialect prohibition, dialect use at school, work, with friends, and at home, media influence, language choice within the household, changes in marriage partner selection, language awareness, and language transmission activities. The results indicated an association between the age of rapid decline in Okinoerabu comprehension and the age at which parents and other household members (e.g., older siblings) began using the standard language at home.

研究分野：危機言語

キーワード：危機言語 言語移行 言語生態 琉球諸語 沖永良部 言語選択

1. 研究開始当初の背景

琉球諸島において、伝統的な地域言語から共通語へと言語移行が進んでいることは知られているが、言語移行の背景に、どのような言語を取り巻く社会的変化があったかは十分に研究されていない。言語が危機的状態になった背景を知ることによって、現在地域で行われている言語復興活動に、地域の実情に即したアプローチを提案することが出来る。

2. 研究の目的

琉球諸島沖永良部島の言語(沖永良部語)の言語衰退の実態を把握し、その要因となった社会的要因をインタビュー調査・アンケート調査から明らかにする。

3. 研究の方法

- (1) 言語実験により言語衰退の実態を明らかにする
- (2) (1)を行う沖永良部島国頭集落において、20-90代の男女を対象に質的調査(インタビュー調査)を行い、言語衰退と関連が見られる要因をピックアップする。
- (3) (1)で得られた結果を基に、全島を対象にした量的調査(アンケート調査)を行い、言語衰退の要因や、言語意識について調査する。

4. 研究成果

沖永良部島国頭集落において、質的調査(インタビュー調査)を26名、島内全域を対象として量的調査(アンケート調査)を505名行い、方言禁止教育、学校・仕事・友人・家庭での方言使用、メディア、家庭内での言語選択、婚姻相手の変化、言語意識、言語継承活動に着目して分析を行った。

その結果、沖永良部語の理解度が急速に低下する年代と、家庭内で親以下(親、目上の兄弟など)が標準語を使用するようになった年代が重なることがわかった(図1)。

年代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代		
インフォーマントの年齢	23 ~27	30	34 ~37	42 ~49	56	58	64 ~65	70 ~79	82 ~88	90 ~92
方言理解度	低い		低下	高い						
家族から方言を使用されたか	親世代も共通語を使用			親同士では方言を使用		家庭内では方言を使用				

図1: 方言理解度と言語選択(横山・富岡・中山 2024: 81)

また、アンケート調査内で言語意識についても質問したところ、回答者の89%が言語継承を望むなど(横山 2023: 168) 継承に肯定的な言語態度が明らかになった。

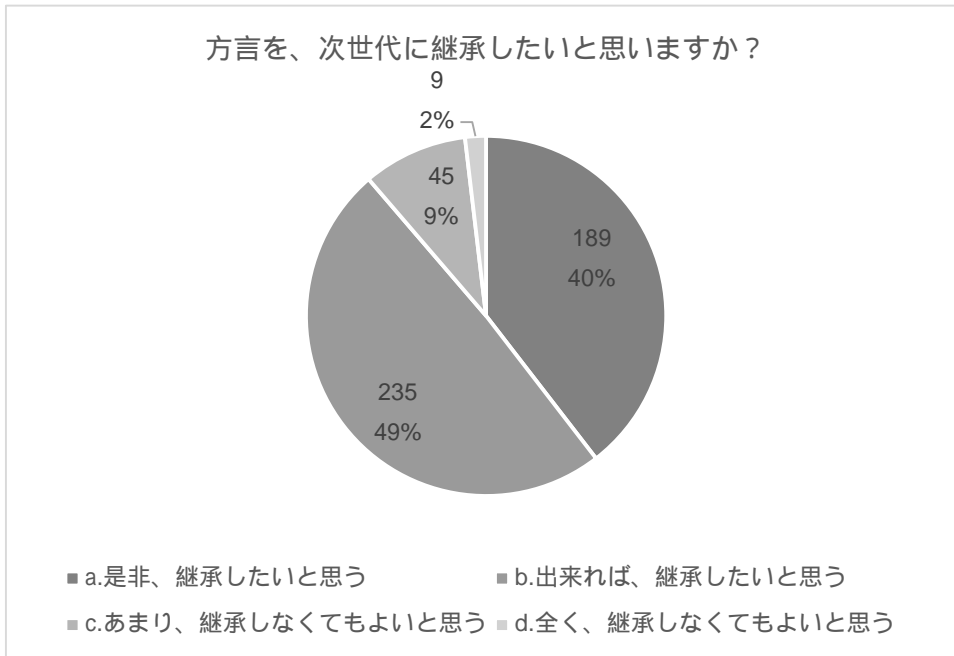


図 2 方言を次世代に継承したいか？（横山 2023: 168）

【研究成果の報告】

横山晶子・富岡裕・中山俊秀（2024）「危機言語コミュニティにおける、家庭内での言語選択の変遷 - 北琉球沖永良部島を事例に 」『琉球の方言』47 71-84. 沖縄文化研究所

横山晶子(2023)「沖永良部島民の言語意識資料 アンケート調査を元に 、『方言の研究』9 161-172 ひつじ書房

横山晶子（2023）「方言の理解度と家庭の中での言語選択」（ことばのミュージアム）
<https://museum.ninjal.ac.jp/area/post-1045.html>

横山晶子・富岡裕（2019）「琉球沖永良部語の衰退要因に関する一考察」（第 158 回日本語学会 2019 年 6 月 22 日）

横山晶子（2023）「島ムニ継承の取組を家庭に」（危機的な状況にある言語・方言サミット・沖永良部大会）

横山晶子・富岡裕（2023）「しまむに社会調査報告会」（2023 年 1 月 19 日：国頭研修館）

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 横山晶子、富岡裕、中山俊秀	4. 巻 47
2. 論文標題 危機言語コミュニティにおける、家庭内での言語選択の変遷 北琉球沖永良部島を事例に	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 琉球の方言	6. 最初と最後の頁 71-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横山晶子	4. 巻 9
2. 論文標題 沖永良部島民の言語意識資料 アンケート調査を元に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 方言の研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横山晶子	4. 巻 4
2. 論文標題 沖永良部島和泊町国頭方言の存在動詞「ある」「ない」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 シマジマのしまくとぅば4 令和4年度 消滅の危機にある方言の記録作成 および啓発事業	6. 最初と最後の頁 40-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akiko Yokoyama	4. 巻 37
2. 論文標題 The interrogative intonation in the Kunigami dialect of Okinoerabu, Ryukyu	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Japanese Linguistics	6. 最初と最後の頁 259
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1515/jjl-2021-2043	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横山晶子	4. 巻 1
2. 論文標題 鹿児島県沖永良部島国頭	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本の消滅危機言語・方言の文法記述	6. 最初と最後の頁 363-436
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akiko Yokoyama	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 The interrogative intonation in the Kunigami dialect of Okinoerabu, Ryukyu	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Japanese Linguistics	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横山晶子	4. 巻 1035
2. 論文標題 琉球諸語オノマトペの世界	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 早稲田文学	6. 最初と最後の頁 98 - 112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 横山晶子, Suraratdecha Sumittra, 富岡裕
2. 発表標題 ヘリテージキャンプ：沖永良部島での実践報告
3. 学会等名 琉球継承言語研究会 (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 横山晶子
2. 発表標題 沖永良部島での取り組み & 家庭内での言語環境と言語理解度について
3. 学会等名 危機的な状況にある言語・方言サミット（奄美大会）・沖永良部（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 横山晶子
2. 発表標題 ワークショップ「危機言語継承RPG（ロール・プレイング・ゲーム）」
3. 学会等名 危機的な状況にある言語・方言サミット（奄美大会）・沖永良部
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 横山晶子
2. 発表標題 壮年層New Speakerの育成
3. 学会等名 第43回NINJALチュートリアル「これからの消滅危機言語の保存研究における市民科学者の育成」2022年3月26日（招待講演）
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 Nobuko KIBE, Kohei NAKAZAWA, Akiko YOKOYAMA
2. 発表標題 Grammatical Relations in Japonic
3. 学会等名 Studies in Asian and African Geolinguistics（国際学会）
4. 発表年 2020年～2021年

1. 発表者名 横山晶子
2. 発表標題 北琉球沖永良部国頭方言の焦点標識
3. 学会等名 日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」オンライン研究発表会
4. 発表年 2020年～2021年

1. 発表者名 Martha Tsutsui, Akiko Yokoyama, Madoka Hammine, Miho Zlazli
2. 発表標題 Effects of Gender on Language Revitalisation & Documentation in the Ryukyus
3. 学会等名 International Conference on Language Documentation & Conservation
4. 発表年 2020年～2021年

1. 発表者名 横山晶子
2. 発表標題 言語継承のアプローチに関する試論：マーケティング理論を参考に
3. 学会等名 沖縄言語研究センター定例会
4. 発表年 2020年～2021年

1. 発表者名 横山晶子
2. 発表標題 自然談話において焦点呼応はいつ現れるか？ - 琉球沖永良部国頭方言の場合 -
3. 学会等名 日本言語学会
4. 発表年 2020年～2021年

1. 発表者名 Kohei Nakazawa, Akiko Yokoyama
2. 発表標題 Stop series in Japonic
3. 学会等名 Studies in Asian and African Geolinguistics
4. 発表年 2020年～2021年

1. 発表者名 横山晶子
2. 発表標題 オンライン調査 の活用例「Skypeによる方言調査」
3. 学会等名 Covid-19の影響下における方言研究のあり方を模索するWS
4. 発表年 2020年～2021年

1. 発表者名 横山晶子・富岡裕
2. 発表標題 琉球沖永良部語の衰退要因に関する一考察
3. 学会等名 日本語学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 横山晶子・富岡裕
2. 発表標題 琉球沖永良部語の衰退要因に関する一考察
3. 学会等名 日本語学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 横山晶子・富岡裕
2. 発表標題 琉球沖永良部語の衰退要因に関する一考察
3. 学会等名 日本言語学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 横山晶子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 160
3. 書名 0から学べるしまむに読本－琉球沖永良部島のことば－	

1. 著者名 横山晶子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 47
3. 書名 みる・よむ・きく 南の島ことば絵本－沖永良部島－ 塩一升の運	

〔産業財産権〕

〔その他〕

しまむに宝箱 https://www.erabumuni.com/ しまむに宝箱 https://www.erabumuni.com/ 衰退の背景にあるもの https://www.erabumuni.com/articles/2019/0703.html しまむに宝箱 http://erabumuni.com
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	富岡 裕 (Tomioka Yutaka)	神田外語大学・アジア言語学科タイ語専攻・特任准教授 (32510)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
タイ	Mahidol University			